



患者情報連携ソリューション導入による業務の効率化 —病棟と内視鏡センターの連携—

東日本電信電話株式会社 NTT東日本関東病院

東京都品川区

594床／職員数 1,249名（うち看護職員数755名）



課題・背景

病棟と内視鏡センター間の連携において、治療患者に関する状況確認をすべて電話で実施しており非効率が生じていた

○病棟看護師は、患者の前処置の状況、送迎時間などの連絡を電話で受けるため、実施している看護ケアを中断または急ぐ必要があった

○内視鏡看護師は何度も電話連絡をする必要がある上、電話による1対1でのコミュニケーションでありエラーにつながるリスクがあった

▶ 複数の看護師が全体のスケジュールや治療の進捗を確認できず、タイムマネジメントが困難

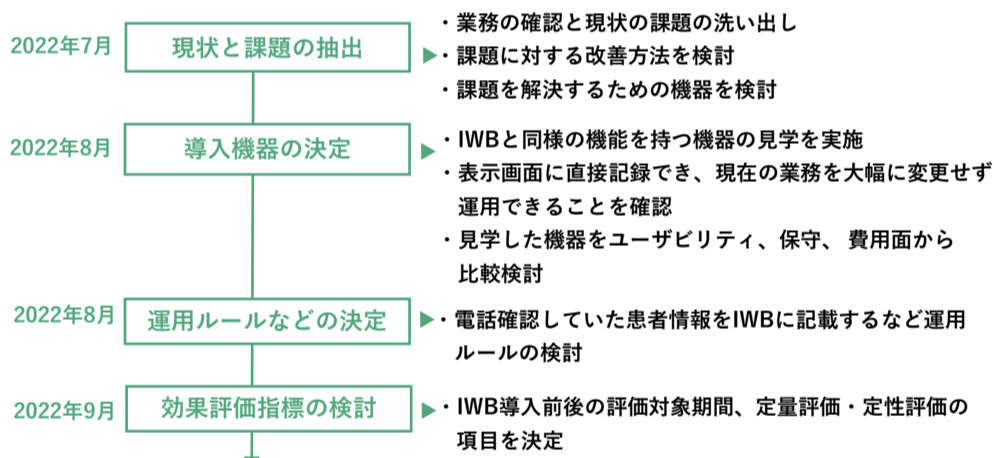
目的・目標

- ①ICTを活用し内視鏡看護師と病棟看護師の連絡手段を効率化する
- ②治療の送迎時間を正確に把握することで創出した時間を、患者の直接ケア時間に充填する
- ③患者間違いを起こさない

▶ 患者情報連携ソリューション（Interactive White Board：以下IWB）を導入し、電話でやり取りしていた業務をIWBへ移行する

取り組み内容

取り組みの流れ

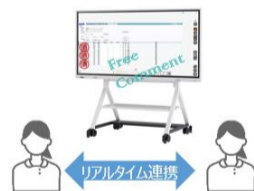


IWB導入機器の決定

<現状>



<理想>



運用ルールについて

○IWB記載内容

- 排便状況：便の性状を青、黄、赤○で記載
- 入室時間
- 検査終了：内視鏡看護師が✓を記載

●月●日	名前	患者ID	便	部位	肉眼形	大きさ	手技	部屋	IC
	高柳 竜田								
C	●山●男	1234567		下部食道	IIc	10mm	食道ESD	1-1	本人
A	●山●女	2345678		体上部後壁	IIc	10mm	胃ESD	1-2	本人
A	●木●雄	3456789	●	R	I s	10mm	大腸EMR	1-3	本人
B	●山●子	4567891	●	T/C	LST-NG	40mm	大腸ESD	2-1	本人
A	●水●郎	5678910	●	Ce	IIa	25mm	大腸ESD	2-2	本人
B	●田●志	6789101	●	A/C	IIa	25mm	大腸ESD	2-3	本人
A	●野●之	7891011	●	A/C	IIa	20mm	大腸ESD	2-4	本人

10:30

入室11:00

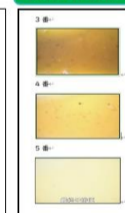
そろそろ治療の時間



運用ルール

5番 ● 4番 ● 3番以下 ● の色を塗る
更新時間をホワイトボード右上に記載する
排便を確認したら随時更新する（便状況が変わらなくても）
排便状況が全室5番になったら更新終了する
※排便状況が変わらない場合でも9:30 10:30 11:30までは定期的に更新していく（リダー）
検査が終了した患者の名前はチェックで内視鏡室が消していくので進行状況を確認していく

便の性状



Aさんの便の性状はOK



成果・効果

①定量評価

	導入前（平均）	導入後（平均）
病棟における1か月当たりの検査・治療件数	130件／月 2022年12月	148件／月 2023年1月～3月
検査・治療終了時間	16時43分（中央値） 2022年7月～9月	16時52分（中央値） 2023年1月～3月
内視鏡センターと病棟間の電話連絡件数	4件／患者1名 2022年9月	0.5件／患者1名 2023年1月～3月
出棟要請時間から出棟までの時間	8分27秒 2022年10月3日～7日	7分 2023年1月16日～20日
病棟看護師の時間外勤務時間	12.4時間／月／人 2022年7月～9月	8.2時間／月／人 2023年1月～3月
患者間違い件数	0件 2022年7月～9月	0件 2023年1月～3月

②定性評価（IWBの導入について）

	そう思う	ややそう思う	どちらかというと思う	そう思わない
医療安全に効果がある	44.4% (12人)	55.6% (15人)	0% (0人)	0% (0人)
医療者の働き方改革に効果がある	40.7% (11人)	51.9% (14人)	7.4% (2人)	0% (0人)

アンケート調査期間：2023年3月8日～3月17日（N=27）

③医療安全への貢献

- 目視で確認ができることによる患者誤認防止
- 患者サポートセンターへの水平展開

④患者のペースに合わせた看護ケアの実現・働き方改革への貢献

- 内視鏡室への入室時間を把握できることにより、**出棟する際の準備を患者のペースに合わせてできるようになった**
- タイムマネジメントが容易になり、空いた時間を内視鏡検査・治療を受ける患者以外へのケアに割り当てることができるようになった